

平成18・19年度  
文部科学省委嘱・熊本県教育委員会指定・八代市教育委員会委嘱  
児童生徒の心に響く道徳教育推進事業

# 研究紀要

## 研究主題

笑顔いきいき 心あったか ともにのびゆく日奈久っ子

### 小学校副主題

～体験をとおして学び合い、  
互いの思いを伝え合う教育活動をとおして～

### 中学校副主題

～感動のある授業と、  
互いの思いを伝え合う教育活動をとおして～



日奈久地区道徳教育推進協議会  
八代市立日奈久小学校・日奈久中学校

# 目 次

はじめに

|           |    |
|-----------|----|
| 研究の概要     | 1  |
| 研究の実際     | 4  |
| 日奈久小学校の取組 | 6  |
| 日奈久中学校の取組 | 13 |
| まとめ       | 20 |

参考文献

研究同人

## はじめに

いじめによる自殺が問題になりました。学校や職場だけでなく、インターネット、ケイタイの世界でも「いじめ」が大きな問題となっています。現代人の心の荒廃ぶりが如実に現れたものだと思うところです。同時に今までの「豊かな心」をはぐくむ教育の在り方、家庭や地域での教育の在り方が問い直されているとも言えるでしょう。

本研究では地域指定として、「日奈久地区道徳教育推進協議会」を立ち上げ、日奈久小・中学校を推進校とし、「豊かな心」をはぐくむ取組を行ってきました。地域の学校に対する意識はとても高く協力的であり、若い世代を大事にして、はぐくんでいこうという風土もあります。そういう「日奈久の力」を生かした取組の一端を紹介してみます。

平成13年5月15日に列車事故で亡くなった友だちの死を無駄にしまいと、小学校では毎月15日を「命の日」として集会を開き、「命の尊さ」を確認し合いながら、地域にも同様のメッセージをここ6年間訴え続けてきています。

中学校の卒業式式辞では、「日奈久の心」と題して、58年前に起きた「津森小学校修学旅行団遭難事故」をもとに、事故当時の日奈久の人々の働きぶりやその精神を紹介して、「人を大事にし、命を大事にする熱い真心」これが「日奈久の心」なのだと、校長先生から生徒たちや保護者に、そして、来賓や地域に訴えられました。

試合中の事故で全身麻痺の大けがを負いながらも、死線を乗り越え蘇った「元プロレスラーハヤブサさん（日奈久出身）」によるトークライブを実施し、児童生徒たちをはじめ多くの日奈久の人々に「不撓不屈の精神」や「家族愛」のメッセージを贈ってもらいました。

小学校の「あいさつ運動」は、PTAを巻き込み、通学路に出て、地域の中でのあいさつ運動を展開し、交通指導や登校の安全確保も兼ねて取り組んでいます。本年度からは、中学生も加わって賑やかなあいさつ運動になっています。

中学校の美化奉仕作業を知って、「中学生がそういう取組をしているのなら、我々地域も一緒に加えてもらいたい。」と、奉仕の輪が広がった「クリーン作戦」も推進しています。

600年ほど遡ってみれば、足利尊氏による肥後菊池氏討伐の戦いで傷を負った浜田右近の息子六郎左右衛門が、父の全快を祈り、巖島神社に祈願。満願の夜のお告げに従ってお湯を探し当て、父の刀傷も治ったという日奈久温泉「孝行の湯」の由来も伝わる日奈久です。

この日奈久地区には人材も豊富ですが、道徳的な素材も多いと思います。

ただ、日奈久だけ特別ということではなく、日本国中、どの地域にもそういう人材・素材、もしくは、地域の誇りとしていることなどが必ず存在します。ないと思ってしまうのは、人材・素材がないのではなく、地域への心、郷土愛そのものが薄くなっているのかもしれない。地元の教材を活かしながら、児童生徒、また地域の人々にも心に響く道徳教育を展開していくことも、この地域指定の一つの方向ではないかと受け止めています。

もちろん、地域指定ということにこだわって、特別な取組をにわかに創り出したりすることは控えたところです。現在、学校においては「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育に取り組まれています。家庭・地域におきまして、日頃取り組んできたことを見直すことを重点に、学校ではぐくまれた心を、家庭や地域社会がこわしてしまうことがないように、学校・家庭・地域がつながりをさらに強くし、日奈久地区の児童生徒を中心に、それらの取組が研究指定終了後も続いていくことを大切にしようというスタンスで取り組んできたところです。忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

最後に、研究推進に指導・助言、激励をいただきました熊本県教育委員会、八代教育事務所、八代市教育委員会、そして、直接本研究会に関わっていただいた校長先生や教頭先生方、保護者、地域の方々に、心より感謝申し上げます、挨拶といたします。

# 研究の概要

## 1 研究主題

### 笑顔いきいき 心あったか とともにのびゆく日奈久っ子

## 2 研究課題について

### (1) 今日の教育課題から

今日、いじめや不登校、自殺、非行の低年齢化、ニート、ひきこもり、虐待、DV、家庭内殺人等々、新聞やテレビで取り上げられる多くの事件やニュースは、「心」の問題としてクローズアップされてきている。現代社会は、価値観の多様化、規範意識の低下、自尊感情の欠如など、ヒトが「人間」としてよりよく生きていくことが難しくなっている状況がある。このような中で、子どもたちの豊かな人間性を育てることは、重要かつ緊急的な課題である。また、子どもたちが将来にわたって主体的に生きるためには、子どもたちはもちろん、周りの大人も含めた道德教育の推進が必要である。

### (2) 地域および子どもの実態から

日奈久地域は、高齢者の割合が高く3世代同居の家庭も多い。子どもたちは、日常生活の中で地域の方々が自然に気遣ってくれるなど、十分満たされた家庭・地域生活を送っている。

子どもの数は減少傾向にあり、現在は小・中学校ともに単学級である。義務教育の9年間で固定化された集団で過ごすため、人間関係の固定化という課題を抱えがちである。子どもたちは、素朴で素直であり、とても勤勉で実直な態度で学校生活を送っている。しかし、自ら進んで相互理解をしようとする意欲、自分の思いをしっかりと相手に伝えようとする態度、学級集団を形成している自覚や集団への所属感の低さなどの課題が見られる。

### (3) 道德教育推進事業における『研究課題』

以上のことをふまえ、文部科学省の「平成18・19年度児童生徒の心に響く道德教育推進事業」の委嘱を受け、次に示す4つの研究課題を中心に取り組むこととした。

|      |                                   |
|------|-----------------------------------|
| 研究課題 | 生命を尊重する心や自己肯定感をはぐくむ道德教育           |
| 研究課題 | 共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育てる道德教育      |
| 研究課題 | 体験活動を生かした道德教育                     |
| 研究課題 | 多様な道德教育教材、道德の時間の資料の選択・開発とその効果的な活用 |

## 3 研究主題について

「笑顔いきいき」とは、自分に自信をもち、思い切り自分を表現できる子どもをイメージしている。自分の思いをしっかりと伝えられてこそ、自分に対する肯定的な感情が生まれてくるはずである。その自己肯定感こそが「笑顔いきいき」である。

「心あったか」とは、思いやりと同じ価値観として考える。他者との心の交流を深める、人間愛の精神に支えられて生きる、美しいものや崇高なものに感動するなど、自己を取り巻く様々なものに対する思いやりの心が「心あったか」であるととらえる。

「ともにのびゆく」とは、他者に共感し互いに協力し合おうとする子どもをイメージしている。人間社会は、個人と個人がかかわり合いながら共に生活している。望ましい規範や価値観の基で、集団への愛情を持ち、自己の役割・責任を果たしていく子どもたちを育てたい。

#### 4 研究主題と小中学校の副主題の関連

### 笑顔いきいき 心あったか ともにのびゆく日奈久っ子

小学校： 体験をとおして学び合い、  
互いの思いを伝え合う教育活動をとおして

中学校： 感動のある授業と、  
互いの思いを伝え合う教育活動をとおして

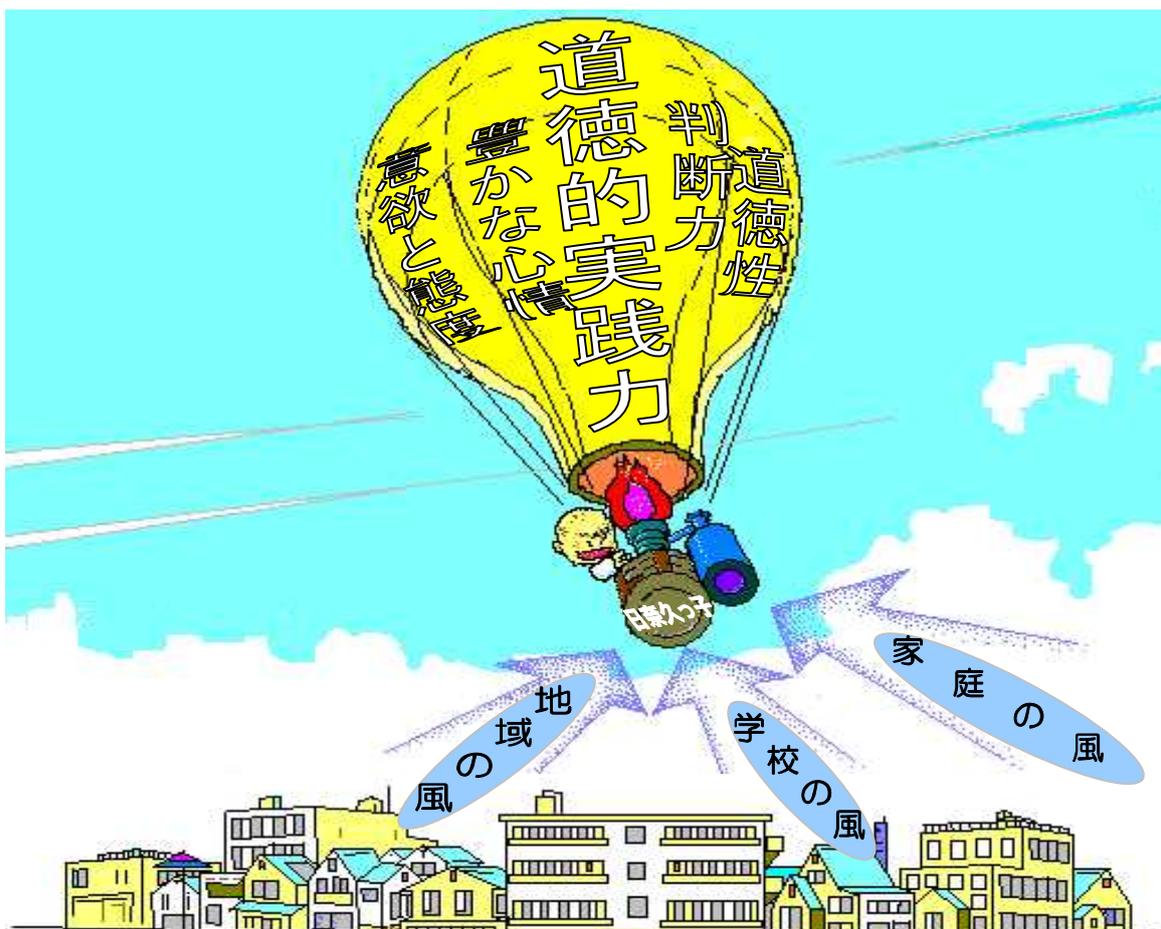
小学校における「体験をとおして学び合う」では、体験や体験活動をとおして児童相互が学び合うことで、自己肯定感や思いやりの心などがはぐくまれ、共感的な集団が形成されていくことをイメージしている。

中学校の「感動のある授業」とは、道徳の時間において、生徒が教材をとおして道徳的な刺激を受けたり、教師の指導法の工夫により道徳的価値を感じて心をゆり動かされることをイメージしている。

小中共通の「互いの思いを伝え合う」では、道徳の時間をはじめ教育活動全体をとおして、児童生徒が互いの考えを述べ合うことで、互いの思いや考えの違いを理解したり認めたりして高め合っていくことをイメージしている。

この副主題については、小中各学校の児童生徒に共通した教育課題の段階的及び系統的解決をめざして設定した。

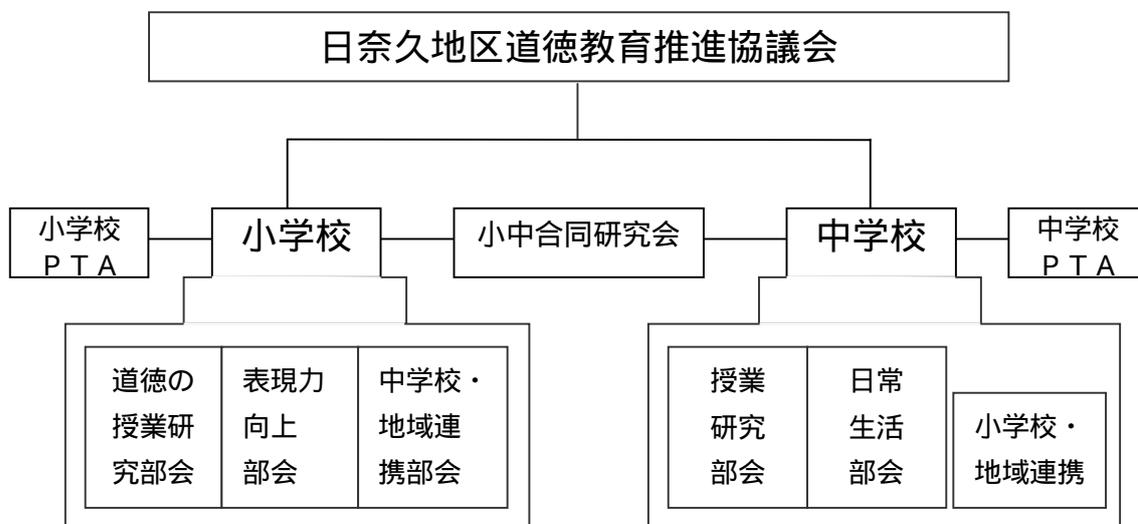
#### 5 研究のイメージ図



## 6 研究の視点について

- (1) 日奈久地区道徳教育推進協議会の発足および活動の工夫
- (2) 体験活動を中心に据えた小中学校の連携
- (3) 小中合同研究会による道徳の時間の研究

## 7 研究組織について



## 8 研究経過および計画について

| 年度 | 月日    | 内 容  | 会 場  |
|----|-------|--|------|
| 17 | 3/20  | 小中合同推進委員会  | 中学校  |
| 18 | 4/21  | 第1回小中合同研究会   | 中学校  |
|    | 9/28  | 平成18年度第1回日奈久地区道徳教育推進協議会  | 中学校  |
|    | 11/15 | 平成17・18年度八代市教育委員会委嘱研究発表会<br>研究主題「いのちを大切に、共によりよく生きていこうとする子どもの育成」～多様な体験活動に支えられた学習活動を通して～ | 小学校  |
|    | 12/8  | 小中合同推進委員会  | 中学校  |
|    | 1/16  | 小中合同推進委員会  | 中学校  |
|    | 1/24  | 平成18年度第2回日奈久地区道徳教育推進協議会  | 中学校  |
|    | 2/7   | 第2回小中合同研究会   | 小学校  |
| 19 | 4/5   | 第3回小中合同研究会   | 中学校  |
|    | 4/28  | 第1回日奈久地区道徳教育推進協議会講演会   | 中学校  |
|    | 5/15  | 平成19年度第1回日奈久地区道徳教育推進協議会  | 中学校  |
|    | 5/30  | 第4回小中合同研究会   | 中学校  |
|    | 6/24  | 第2回日奈久地区道徳教育推進協議会公演会   | 小学校  |
|    | 9/21  | 平成19年度第2回日奈久地区道徳教育推進協議会  | 中学校  |
|    | 11/15 | 平成19年度第3回日奈久地区道徳教育推進協議会  | 小中学校 |
|    | 1月    | 平成19年度第4回日奈久地区道徳教育推進協議会  | 中学校  |

## 研究の実際

### 1 日奈久地区道徳教育推進協議会の発足および活動の工夫

#### (1) 道徳教育講演会の実施

熊本大学の吉田道雄教授を招いて講演会を実施した。

日奈久地域の方々をはじめ、小中学校の保護者、教職員、道徳教育推進協議会委員など100名を超える参加があった。



【吉田道雄氏】



【第1回講演会の様子】

#### (2) 道徳教育公演会の実施

日奈久小中出身で、プロレスラー・歌手のハヤブサさんを招いて、トーク＆ライブの公演会を実施した。

小中学生、保護者、教職員、地域の方々、ハヤブサさんの同級生など約250名が参加し、会場を盛り上げた。



【第2回公演会の様子】

### 2 体験活動を中心に据えた小中学校の連携

#### (1) あいさつ運動の実施

これまで小学校で継続して取り組んできたあいさつ運動を、地域全体へと広げる第一歩として、中学生や地域の方々の参加を募り実施した。

毎月1週間をあいさつ運動実施期間として設定し、登校時間に小学校の正門に並んで活動している。



【朝のあいさつ運動の様子】

#### (2) 夏休み地域清掃活動の合同実施

これまで日奈久校区では、夏休み中に小学校の地区児童会と中学校の地区生徒会で、それぞれ自分たちの地区の清掃活動を行ってきた。その活動における作業効率や充実等を考慮し、合同実施を計画し活動した。

小中学生ともに協力して活動し、地域に貢献する活動となった。



【夏休み地域清掃活動の様子】

### 3 小中合同研究会による道徳の時間の研究

#### (1) 研究授業および合同授業研究会の実施

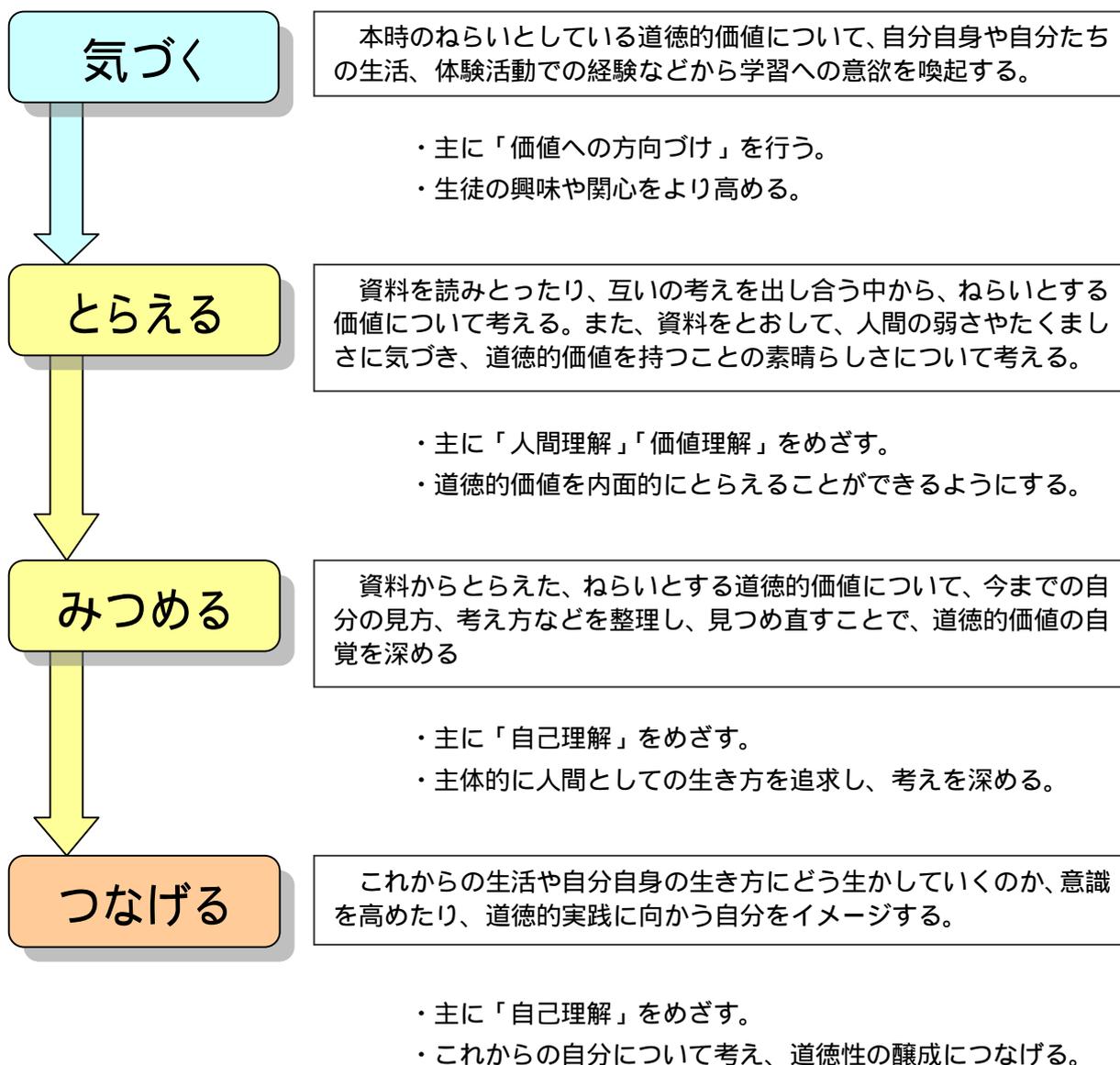
研究において「授業の研究」が教師にとって一番重要だと考える。小学校の児童と中学校の生徒とで発達段階は異なるが、研究授業や合同授業研究会の実施や授業公開の日常化を進めることで、教師相互の理解の深まりとともに、それぞれの指導力向上および発達段階をふまえた授業改善につながった。



【合同研究会による研究授業の様子】

#### (2) 道徳の時間における学習指導過程の工夫

道徳の時間は、各教科や特別活動、総合的な学習の時間などにおける道徳性の育成と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってそれらを補充、深化、統合する時間である。小中合同研究会では、以下のように学習指導過程を工夫し、研究実践を行った。



# 日奈久小学校の取組

## 1 研究の内容

### (1) 研究の仮説

研究主題に迫るために、道徳の授業、表現力の育成、体験活動の充実という点から、次の2つの仮説を設定した。

仮説 学習指導過程を意識し、授業において体験を生かしたり、表現活動を取り入れた  
り、指導法を工夫したりすれば、道徳の授業が児童の心に響くものになるであろう。

仮説 自分を表現するスキルを身につけ、いろいろな人と交流したり体験活動をした  
りすれば、子どもたちは自己肯定感を持つとともに、他者に対する思いやりの心を持  
ち、集団の中で自己の役割や責任を果たしていこうとするようになるであろう。

### (2) 研究の視点

視点1 児童の心に響く道徳の授業の研究  
視点2 豊かな体験活動の研究と体験活動を生かした道徳の授業づくりの工夫  
視点3 自分の思いを表現し、互いの思いを伝え合う活動を生かした道徳教育  
視点4 保護者や地域と連携した道徳教育の推進

## 2 研究の具体化

### (1) 道徳の授業研究部会

学習指導過程の工夫

体験や体験活動を生かした道徳の授業づくり

自分の思いを語り合い、互いの思いを伝え合う表現活動を取り入れた道徳の授業

「人間理解」「価値理解」「自己理解」「自己発見・希望」の観点を意識した資料の分析や  
発問づくり

児童の思考の流れに沿った板書の工夫や、道徳的価値の自覚を深める教材・教具の工夫

学習シートの工夫や心のノートの活用

ゲストティーチャーの活用や、校長・教頭の参加による、開かれた道徳の授業づくり

支持的風土の醸成と本音で語る道徳の授業づくり

### (2) 表現力向上部会

自分の思いをしっかりと伝えるための発表の仕方の研究・実践

表現力を高めるソーシャルスキルトレーニング教育（スマイル学習）の研究・実践

集会での発表活動など表現の場の研究

### (3) 中学校・地域連携部会

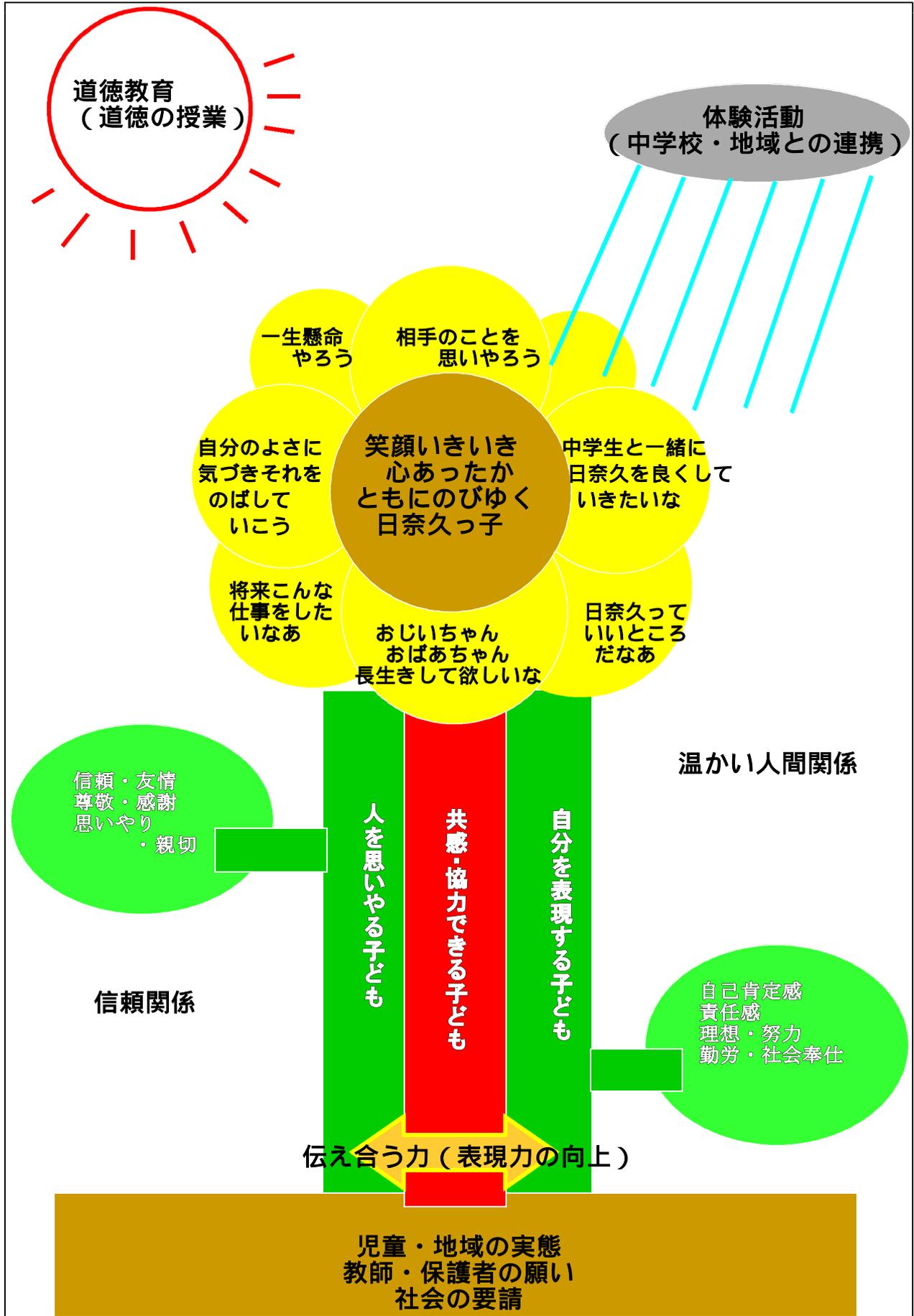
あいさつ運動やクリーン活動など中学校と連携した豊かな体験の推進

あったかカレンダーづくりなど地域と連携した道徳教育の推進

体験活動の良さが分かるような校内掲示の充実

学級通信に道徳教育のコーナーを設けるなどの保護者・地域への啓発活動の推進

3 研究の構想図



#### 4 道徳の授業研究部会

道徳の授業研究部会では、基本的指導過程を設定し、体験を生かした授業づくりや、表現活動を取り入れた授業づくり、指導法を工夫した授業づくりなど、児童の心に響く道徳の授業について研究・実践を行った。

### 気づく

日常生活での体験や各教科等における体験活動を繰り返すことで、児童の興味や関心を深め、道徳的価値への方向づけを行う。

#### 実践1 4年「田中さんの時計」(自作資料) 2 - (2) 思いやり

体験することで感じ取ったさまざまな思いを、道徳の時間において道徳的価値としてとらえ直し、補充・深化・統合することで道徳的価値の自覚を深めることをねらった。

総合的な学習の時間で行った施設訪問の場面を、スクリーンに映し出し繰り返らせることで児童の興味や関心を深められた。

【体験活動を生かした道徳の授業】



### とらえる

資料をとおして、人間の弱さや強さに気づく「人間理解」、道徳的価値を持つことの素晴らしさについて考える「価値理解」の深化を図る。

#### 実践1 3年「貝がら」 2 - (2) 思いやり・親切

「とらえる」段階では、この時間で学習する道徳的価値に照らした資料の読み取りが、児童にとってとても大切になると考えた。

場面の絵や道徳的価値を深めるためのキーワードを黒板に掲示したことで、児童は資料をしっかり読み取ることができた。

【児童の思考の流れに沿った板書の工夫】



#### 実践2 2年「みちくさ」 1 - (1) 基本的生活習慣

資料をとおして、人間の心にある弱さや強さに気づかせることをねらった。

資料に出てくる主人公の心の葛藤を、「ハート型の教具」を使ってとらえるようにした。みちくさを「する」「しない」で揺れ動く心が分かり易くなり、人間理解を深めることができた。

【道徳的価値の自覚を深める教材・教具】



## みつめる

資料でとらえた道徳的価値に照らし合わせて、今までの自分の見方・考え方などを整理して自分を見つめ直し、「自己理解」の深化を図る。

### 実践1 6年「母の仕事」2-(5) 尊敬・感謝

「みつめる」段階では、思いを伝え合う活動を取り入れ、児童が自分を深く見つめていくことをねらった。

自分の身の回りにも苦勞を乗り越えて仕事を続けている人がいることを確認し、その人への尊敬の念や感謝の思いを自分の言葉で表現することで、道徳的価値の自覚を深めることができた。

【伝え合う表現活動を取り入れた授業】



### 実践2 5年「トマトとメロン」1-(6) 個性の伸長

学習シートの工夫や心のノートの活用で、児童が「自己理解」を深めることをねらった。

心のノートに、自分の良い所や伸ばしていきたいことを書き込む活動を取り入れ、自分の良さを発見することができた。また、これは自己肯定感の高まりにもつながった。

【学習シートの工夫と心のノートの活用】



## つなげる

いろいろな人の話を聞くことで、道徳的実践に向かう自分をイメージし、これからの自分の生き方に希望を持つようにする。

### 実践1 1年「ひつじかいのいたずら」1-(4) 正直誠実・明朗

ゲストティーチャーや校長・教頭の説話を取り入れる多様な展開で、道徳の授業が児童のこれからの生き方につながっていくことをねらった。

教頭の説話の中に、自分の失敗を正直に話して良かったという過去の思い出があり、正直に生きることの心地よさを多くの児童が感じ取ることができた。

【GTの活用や校長・教頭の参加】



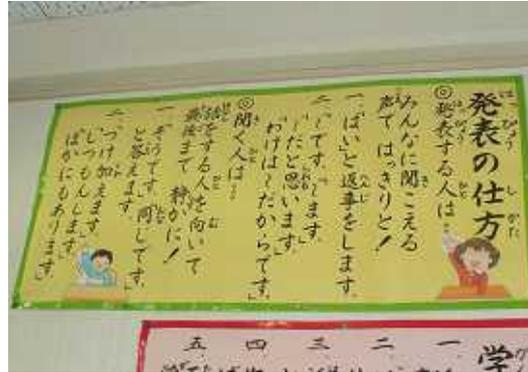
## 5 表現力向上部会

表現力向上部会では、研究副主題にある「互いの思いを伝え合う」ための取組を研究している。ここでめざす児童のイメージは、「自分の思いを言葉や文章で相手に分かりやすく伝え合うことができる子ども」である。

### (1) 「発表の仕方」の実践

本校は、昨年度より授業中に発表する際に「発表の仕方」という約束事を決めて、全学年共通の取組として実践してきた。

「発表の仕方」では、話す側と聞く側の注意点を明示しており、話したり聞いたりするという表現スキルが向上してきた。また、それと併せて、しっかり友だちの話を聞き合うという支持的風土も醸成されてきた。



### (2) ソーシャルスキル教育（スマイル学習）の実践

「スマイル学習」とは、ソーシャルスキルトレーニングの一つである。各学年、年間4時間を設定して総合的な学習の時間や生活科、学級活動に位置づけて取り組んできた。

このスキル学習の実践で、児童は自分を肯定的にとらえることができるようになり、相手と円滑なコミュニケーションをとることができるようになった。

### (3) 表現の場の研究

#### ア 日常の発表活動

昼の放送で、日頃取り組んでいる日記や感想文を発表する実践を行った。これは、自分の思いをしっかりと表現することをねらっているだけでなく、聞く側にとってもいろいろな友だちの思いに気づき、互いを理解し合うようになることもめざしている。

#### イ 集会での発表活動

本校では「たけのこ集会」や「命の日集会」、「平和集会」「人権集会」などの集会活動が多くあり、全校児童の前で発表する機会がたくさんある。また、命の日や人権週間の際には、オープンルーム等で低・中・高学年ごとに簡単な発表活動をする機会もある。

こうした活動の中での発表についても表現力向上の良い機会として取り組んできた。

今年度からは、マイクを使わずに自分の生の声で話すこと、原稿を読まずに、できるだけ自分の言葉でみんなに語りかけるように話すことを共通理解し実践してきた。

これらの取組をとおして、一人一人が自分の思いをしっかりと表現したり、それを真剣に受けとめたりする児童の様子が見られるようになってきた。



たけのこ集会でのISO宣言（5年生）

## 6 中学校・地域連携部会

中学校・地域連携部会では、副主題の「体験をとおして学び合う」という点を意識して、日奈久地区道徳教育推進協議会や日奈久中学校と連携を図りながら、学校、家庭、地域が一体となって豊かな心づくりを推進している。

### (1) 小中が連携した活動



あいさつ運動

よりよい人間関係づくりと小中の連携をねらって、小中共同のあいさつ運動を行った。(月1回 1週間)



校区クリーン作戦

身近な環境への関心や地域住民としての自覚を高めるため校区内の清掃活動を計画、実施した。(学期1回)



夏休み地域清掃活動

作業効率と充実を考え、小中それぞれが単独で行っていた長期休業中の地域清掃活動を合同で行った。

### (2) 地域と連携した活動



あったかカレンダーの作成

2年前から校区内の独り暮らしのお年寄りの方へ自作のカレンダーを贈っている。日頃あまりお会いしない地域のお年寄りとの心のつながりができるように願っている。児童は「お年寄りのうれしそうな笑顔が心に残っている」と喜んで活動している。



あったかカレンダーの配布

### (3) 体験活動掲示の充実



体験活動紹介の場として「スマイル&ハート」コーナーを設置し、小中学校や地域での様々な活動を紹介している。

### (4) 啓発活動

**プール交流で得たもの。 ～こころのコーナー～**

梅雨が明け、気持ち良い澄んだ青空の下で、延期になった若竹保育園とのプール交流を行いました。はじめは戸惑っていた子どもたちも、一緒に準備運動をしたり、水遊びをしたりする中で、どのようにしたら小さい子どもが喜んでくれるのかを感じ取りながら、しっかりお世話をしてくれました。

「自分が楽しむ時間ではない」という基本姿勢を崩さずに過ごした1時間でしたが、その中で、小さい子どものお世話を喜んでくれた時に感じられる「価値の高い喜び」を味わった5年生でした。

学級通信に道徳の授業での児童の様子や日頃の生活の中での心温まるエピソードなどを記載し、家庭と学校が連携して児童の心の成長を見守ることができるようになっている。

## 7 研究の成果と今後の課題

設定した2つの課題に従って、研究の成果および課題を述べると以下ようになる。

仮説 学習指導過程を意識し、授業において体験を生かしたり、表現活動を取り入れた  
り、指導法を工夫したりすれば、道徳の授業が児童の心に響くものになるであろう。

学習指導過程を4段階で組み、教師がそれぞれの過程で「人間理解」「価値理解」「自己理解」「自己発見・希望」の4観点を意識したことで、道徳的価値の自覚を深めるための資料分析や発問づくりをすることができた。

道徳の授業に児童のこれまでの体験を生かす場面を設けたことで、児童は「人間としての在り方や生き方」という視点で自分を見つめ、道徳的価値の自覚を深めることができた。

道徳の時間に表現活動を取り入れたことで、児童は自分の思いをしっかりと語ったり、互いの思いを伝えあったりでき、児童相互の理解や道徳的価値の自覚を深めることができた。

道徳の時間に表現活動を効果的に取り入れるためには、児童の表現力の育成、教室の支持的風土などが必要であり、日頃の学級経営が重要であることを再認識することができた。

効果音の活用や学習シートの工夫、GTの活用や校長・教頭の授業参加など、指導法を工夫することで、児童の道徳的価値の自覚の深まりをサポートできることが実感できた。

道徳の授業の中で、体験そのものを資料として扱うことや地域素材を教材として開発することにもチャレンジして、体験を生かした道徳の授業づくりをさらに進めていきたい。

児童の心に響く道徳の指導法の研究をさらに進め、多彩な道徳の授業が展開できるようにしていきたい。

仮説 自分を表現するスキルを身につけ、いろいろな人と交流したり体験活動をしたりすれば、子どもたちは自己肯定感を持つとともに、他者に対する思いやりの心を持ち、集団の中で自己の役割や責任を果たしていこうとするようになるであろう。

スマイル学習（ソーシャルスキルトレーニング）に取り組むことで、児童は自分を表現する方法を学び、自分の思いを周りの人たちにしっかりと伝えられるようになってきている。

いろいろな人との交流の中で自分を表現する活動を重ねていくことで、児童は自分に自信を持ち、自分に対する肯定的な感情を持つようになってきた。

中学校の生徒や地域の人々と一緒に活動し、交流をすることで、児童はいろいろな立場の人の思いを理解し、自分を取り巻く人々への思いやりの心を持つようになってきた。

あいさつ運動やクリーン作戦、あったかカレンダーづくりなど、地域に働きかける体験活動などに取り組むことで、児童は地域の中における自分の位置が分かり、地域の中で自分の役割を果たしていこうとする思いを持つようになってきた。

学級通信や学校便りに道徳教育に関する記事を記載することで、保護者・地域に対する道徳教育の啓発活動が充実し、地域一体となった道徳教育が展開できるようになってきた。

本年度から取り組み始めた「スマイル学習」をはじめとする表現力向上に関する取組を継続し、児童が自信を持って自分を表現し、自己肯定感をさらに獲得していけるようにしたい。

地域関係諸機関との連携のさらなる充実を図りながら、地域全体で進める道徳教育を継続していきたい。

# 日奈久中学校の取組

## 1 研究の内容

### (1) 研究の仮説

研究主題に迫るために、道徳の時間、表現力の育成という点から、次の2つの仮説を設定した。

仮説 道徳の時間において、魅力的な教材(資料・教具等)の開発や指導法の工夫を進めることにより、さまざまな生き方や考え方に感動し、ともによりよく生きていこうとする心情をはぐくむことができるであろう。

仮説 日常生活や授業において、互いの思いを伝え合う活動を工夫することにより、自尊感情がはぐくまれ、相互理解も進み、共感的で向上心のある集団を形成することができるであろう。

### (2) 研究の視点

視点1 魅力ある教材(資料・教具等)の工夫・開発、地域人材、ゲストティーチャー(GT)の活用

視点2 体験活動・学校行事と道徳の時間の関連づけなどによる道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の工夫

視点3 互いの思いや考えを伝え合う活動を生かした道徳教育の推進

視点4 心のノートや生活ノートの活用の推進

## 2 研究の具体化

### (1) 授業研究部会

魅力ある教材(資料・教具等)の工夫・開発

地域人材、ゲスト・ティーチャー(GT)の活用

体験活動と道徳の時間の関連づけなどによる道徳的価値を深める道徳の時間の工夫

道徳の時間の指導法研究(発問の工夫・伝え合いの指導の工夫等)

心のノートの活用

保護者への啓発(授業参観・学級通信・学校通信など)

### (2) 日常生活部会

互いの思いを伝え合う活動を生かした道徳教育の推進(昼のスピーチ、生徒集会)

生徒が主体的に活動する場における道徳教育の推進(生徒集会、委員会活動、生徒会活動)

心のノートや生活ノートの活用の推進

掲示教育による啓発

学校内外の環境の整備

アンケートの実施・集計・考察

### (3) その他(連携等については、各校務分掌で担当)

小学校との連携(クリーン作戦、町内清掃、あいさつ運動、発行物の交換)

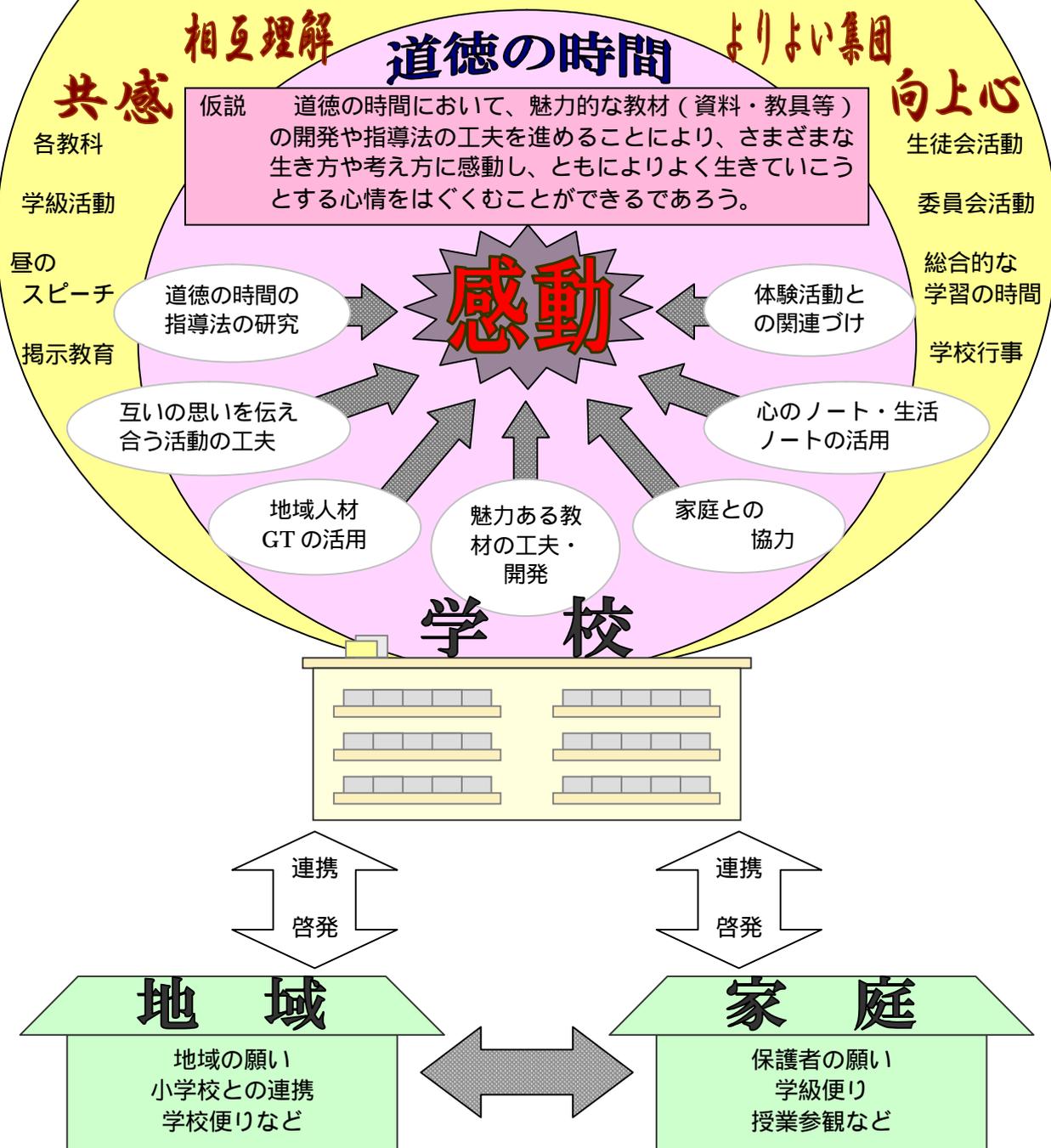
地域との連携(クリーン作戦、町内清掃、GTの活用等)

3 研究の構想図

研究主題： 笑顔いきいき 心あったか とともにのびゆく日奈久っ子  
 ~感動のある授業と、互いの思いを伝え合う教育活動をとおして~

互いの思いを伝え合う教育活動

仮説 日常生活や授業において、互いの思いを伝え合う活動を工夫することにより、自尊感情がはぐくまれ、相互理解も進み、共感的で向上心のある集団を形成することができるであろう。



#### 4 授業研究部会

授業研究部会では、基本的指導過程を設定し、魅力ある教材の工夫開発、ゲストティーチャー（G T）の活用、体験活動との関連づけの工夫などに取り組み、「感動のある授業」をめざした。

### 気づく

日常生活の出来事や体験活動での経験、あるいは社会的な事象を活用することで、生徒の興味や関心を高め、道徳的価値への方向づけを行う。

#### 実践1 3年「ボランティアって何だ？」4 - (5) 奉仕の精神

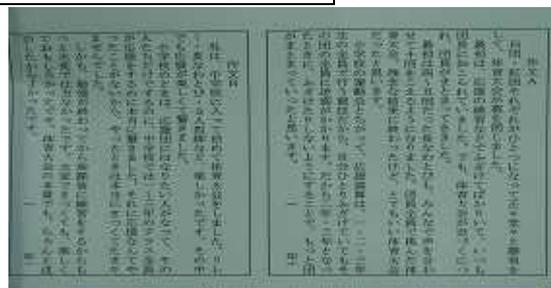
自分たちの身の回りの生活に目を向けさせ、道徳的価値への方向づけをねらった。

車椅子のイラストを提示し、総合的な学習の時間の体験活動で学んだことや感じたこと等を想起させたことで、より生徒の意欲が高まった。【体験活動との関連づけ】



#### 実践2 全校道徳「翼～ここに集う一人一人の羽～」4 - (7) 愛校心（各学級で実施）

学校行事そのものを扱うことで、生徒の興味や関心を引きつけることをねらった。体育大会のテーマ曲や活動中の写真、生徒の感想文を生かした自作資料など、生徒自身の思い入れが強い学校行事を活用することで、生徒の心をゆさぶる動機づけになった。【体験活動との関連づけ】



【生徒の感想文をもとに自作した資料】

### とらえる

資料をもとに、その提示や活用の工夫を重ねることにより、道徳的価値を内面的にとらえ、人間としての在り方についての自覚を図る。

#### 実践1 2年「ある朝の出来事」4 - (3) 公德心

生徒一人一人が、資料の中心場面の状況をより深く理解できることをねらった。

プロジェクターを活用することで、読み物資料の中の挿絵や教師の工夫を凝らした補助資料を視覚的に提示でき、生徒一人一人が道徳的価値について深く考えることができた。【魅力ある教材の工夫】



#### 実践2 全校道徳「タイ国との架け橋」4 - (10) 国際協力（全校一斉に実施）

道徳的価値をしっかりとらえ、自分自身の在り方を考えることをねらった。

本校の元生徒会長（G T）を招き、アルミ缶回収活動を始めた経緯や当時の思いを語ってもらった。生徒自身の活動をふり返るとともに国際協力について深く考えることができた。【地域人材・G Tの活用】



## みつめる

資料でとらえた道徳的価値とこれまでの自分とを照らし合わせ、みつめ直すことにより、生徒自身が主体的に人間としての生き方を追求する。

### 実践1 1年「ミソアジの学校」4-(7)愛校心

生徒自身の日常的な活動に対する日頃の関わり方をみつめ直すことをねらった。

友だちや上級生が、実際にあいさつ運動に取り組んでいる映像を見ることで、自分自身も学校を盛り上げる一員になれること、なっていこうという意欲が高まった。

【魅力ある教材の工夫】



### 実践2 3年「そして不死鳥はよみがえる」1-(2)不撓不屈

生徒自身の今後の人間としての生き方をじっくりみつめることをねらった。

リング上での事故を乗り越え活躍中の、歌手でプロレスラーのハヤブサさん(本校卒業生)をGTとして招き、御自身の生き様を語ってもらった。夢に向かってあきらめずに取り組んでいる姿に生徒も教師も感動した。

【地域人材・GTの活用】



## つなげる

道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、温めたり、あるいは友だちと互いに伝え合ったりすることにより、道徳的実践力の育成を図る。

### 実践1 3年「伝統のバトンリレー」4-(9)伝統の継承

伝統や日奈久のよさを再認識し、自分自身の生き方につなげることをねらった。

400年を超える伝統を受け継ぐ肥後高田焼上野窯の第12代当主上野浩之さんをGTとして招いた。「伝統を守ることは難しくはないが、伝統を新しく作っていくことが難しい」という職人氣質のすごさに生徒は感動した。【地域人材・GTの活用】



### 書く活動(ワークシートの工夫・開発)



書くことによりこれらの自分につながります。

### 保護者への啓発(学級通信の発行)



授業の感想を紹介し家庭とつながります。

## 5 日常生活部会

日常生活部会では、「互いの思いを伝え合う」ために、特別活動をはじめ日常の様々な活動の工夫改善に取り組んだ。

### (1) スピーチ活動の工夫

#### ア お昼のスピーチ

給食時に行う昼の放送で、全校生徒によるスピーチの時間を設定した。最初は、決められたテーマについて原稿を書き、担当学年の教師が添削を行っている。17年度から実践しており、年間一人当たり2回ずつ行った。本年度は、1学期中に生徒全員に順番が回った。はじめは表面的な内容が多かったが、友だちのスピーチを参考にし、少しずつ内面的なものへと変わってきている。



【お昼のスピーチ】

#### イ 生徒集会でのスピーチ

生徒集会（毎月2回実施）でもスピーチ活動を行っている。内容は、生徒会役員によるもの、各学年生徒によるもので、テーマは生徒会役員が設定している。ここでは、相手に思いをしっかりと伝える工夫として、原稿を使わずに、聞いている生徒の顔を見ながら発表を行うようにしている。



【生徒集会でのスピーチ】

### (2) 生活ノート（本校オリジナル）の工夫

本校では、週の予定を示した「週ガイド」と生徒がメモをとる「生活の記録」とを一体化させたオリジナルの生活ノートを活用している。これにより学校生活と家庭生活の結びつきが強まり、学習用具の忘れ物が減ったり、反省を次に生かしたりするなど生徒の生活向上に役立っている。A4の用紙をファイルに綴じて、見開いたときに左ページには「週ガイド」右ページには「生活の記録」が見られるような形式で、毎週配布し生徒自身が綴っている。

毎週作成している週ガイドには、全学年の時間割・日課・来週の予定・今月の目標（生徒議会の決定事項や専門委員会の目標）など、学校生活に関する情報をたくさん載せている。また、『心で聴く』と題し、教師の思いを伝えるコーナーを設け、その週の前後の行事や出来事に応じた話や雑感、祝日の由来などを掲載し、生徒の情操の涵養もねらいとしている。



【左ページ：週ガイド】【右ページ：生活の記録】

「生活の記録」には、時間割・学習用具・宿題の欄をつくり、生徒が自由かつ意欲的に活用することをねらっている。

そして、活用しながら改良を加えている。例えば、本年度は、その日の授業の集中度をふり返る欄を設け、学習に臨む姿勢を自己評価できるようにしている。

活用の状況については、帰りの会の中で翌日の教科連絡や日記を記入する時間を設定している。また、学級によっては会の中でショートスピーチを順番で発表する機会も設けている。

生徒の日記には「 が楽しかった」とか「 がきつかった」などの簡単な記入が見られたので、毎朝、学級担任はノートを集め、点検やコメント記入を続け、「このノートは『未来の自分に今の思いを伝えるノート』になるから」と励ましつつ、自分の思いを文字として書く経験を重ねるようにしてきた。学級担任との心の通い合いを通じて、少しずつではあるが自尊心の高まりや向上心の育成につながっている。

### (3) 生徒会活動(アルミ缶回収)の工夫

タイの子どもたちの奨学生制度(ダルニー奨学金)への参加協力を目的として、生徒会の執行部が中心となりアルミ缶回収の活動に取り組んでいる。

生徒会では、学級ごとに回収するアルミ缶の数を競ったり地域に呼びかけて集めたりして活動を進めている。地域には、わざわざ学校までたくさんのアルミ缶を車で届ける方もおられ、生徒会の活動が地域ぐるみの取組へと広がっているのを感じるとともに、地域の方の心のあたたかさも肌で感じている。さらに、体験と道徳の時間(全校道徳)とを深く関連づけることで、より多くの感動につながった。

現在、このアルミ缶回収の益金で毎年2名のダルニー奨学生を支援しており、校内にはその学生の写真も掲示し紹介している。



【生徒会による活動】



【地域の方々による協力】

### (4) 掲示教育(ゆめみるき)の工夫

校舎の新築時に切り倒した大木の根でつくられているキャンドル台を、立体的な掲示物にしようと考えた。業者に分けてもらった廃材を教師が絵馬風の板に加工し、生徒は自分の思いや願い・抱負や目標等を書いて掲げ、心の励みにするようにした。また、このキャンドル台の名称を生徒から募集し、「ゆめみるき」と名づけた。

昨年度の1月には、当時の3年生は実現しようとする進路や将来の夢について書き、2年生は立志式に向けての自主自立の誓いを書いた。休み時間には、友だちの絵馬を手にとりて読む姿が見られ、仲間の思いや願いを知り、それを尊重したり応援したりする態度へとつなげている。



【ゆめみるき】



【生徒の思いや願い】

## 6 連携について

各連携については、校務分掌における担当者が中心となり、日奈久地区道徳推進協議会や小学校との連携を図りながら、学校、家庭、地域が一体となって豊かな心づくりを推進している。

### (1) 小学校との連携



【あいさつ運動への協力】

小学校のあいさつ運動に参加協力した。風紀委員会を中心として活動を行った。

### (2) 地域との連携



【講演会の実施と清掃活動】

空き缶を拾いながら九州一周を達成した中林朗夫さんの講演と地域清掃を行った。

### (3) 地域への啓発



【学校長による学校便りの発行】

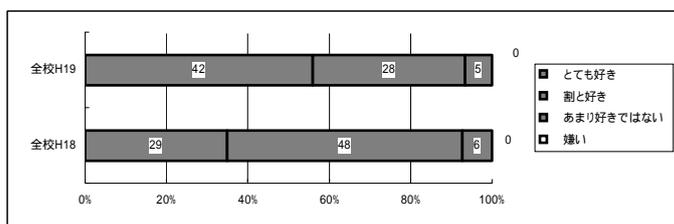
手描きのイラストを交えた内容で構成し、日奈久地区の全家庭に配布している。

## 7 研究の成果と今後の課題

### (1) 生徒へのアンケートの結果と分析

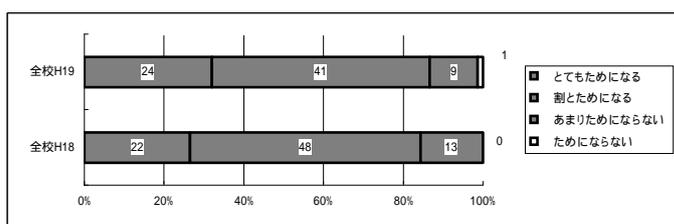
「道徳意識に関するアンケート」を18年度の6月と3月、19年度6月の3回実施し、比較検討を行い、取組の評価改善に生かしている。

#### ア あなたは日奈久中学校が好きですか



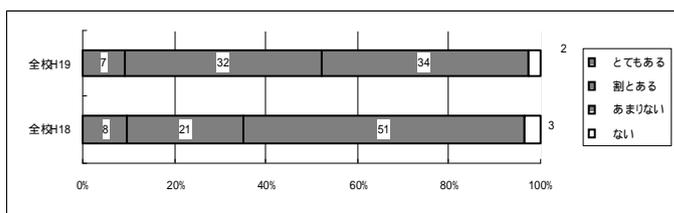
生徒会活動を中心とした地域の清掃活動や奉仕活動、あいさつ運動などの豊かな体験活動を実践したことで、前年度に比べて好きの結果が伸びてきた。日奈久地域、すなわち郷土愛を持つ意識が高まった結果であると思われる。

#### イ 道徳の授業は自分のためになっていますか



2年間ともに高い結果が出ていることから、道徳の時間への生徒の関心・意欲など意識が高まってきたと思われる。また、体験活動を中心とした授業の展開で、自分の存在価値を見出し、自己肯定感を高めることにつながった。

#### ウ 小学校から今までの間で、心に残った道徳の授業がありますか



道徳の時間において、ゲストティーチャーの活用や教材の開発等、工夫していったことで、生徒の心を揺り動かすことができた。また、授業における感動体験により、道徳的心情や道徳的判断力が高まったと思われる。

### (2) 研究の成果と今後の課題 (成果、課題)

道徳の時間の指導過程の中に、魅力ある教材や体験活動と関連づけた資料を意図的に組み込むことにより、生徒の興味関心が高まり、道徳の時間を楽しみにする生徒が増えた。

GT(ゲストティーチャー)の活用により、生徒だけでなく教師にとっても、本物に触れることで感動があり、地域のよさに触れることで新しい発見があった。

互いの思いを伝え合う活動を推進することにより、恥ずかしがらずに話すことができるようになり、自分の思いや考えをきちんと相手に伝えようという意識も高まった。

ワークシートの工夫や生活ノートの活用により、書く活動をとおして自分の思いを確かにし、自分の生き方についての考えを深めることができるようになった。

道徳の時間のねらいをより達成するためには、補助資料や教具を指導過程のどの位置で活用すれば、より効果的で感動のある授業につながるかをさらに研究していく。

自分の思いや考えを即座に言葉として発し、互いにしっかりと伝え合うことができるような生徒の育成にこれからも努めていく。

道徳の時間においては、「心のノート」の活用を行ったが、さらに様々な場面での活用や工夫の方法をもっと研究していく。

## まとめ

この研究を始めるまでは、学校での取組は学校における取組であり、地域における取組は地域における取組であることが多かった。しかし、学校と地域が同じ方向に向かって共同で取り組むことで、理解の深まりと協力関係がより強固になったといえる。例えば、小学校のあいさつ運動、中学校のクリーン作戦といった体験活動を生かした道徳教育（研究課題）が核となり、その輪の中に地域の方々が参加協力をされることで、子どもだけでなく地域の大人の意識も変容してきている。あるいは、子どもと大人のつながりだけでなく、推進協議会が中心となり企画・開催した2回の講演会では、たくさんの地域（大人）の方々に参加していただいた。そこでは、大人同士の心のつながりや思いやりの心・協力し合う態度（研究課題）を強めるきっかけにすることができたり、生命の大切さを感じる心や自分を好きになる心（研究課題）を再認識することができた。さらに、学校教育においては、道徳の時間の様々な研究実践（研究課題）により、日奈久っ子の心に響く道徳教育の展開が図られた。これらの取組により、地域の高齢者の中には、学校および子どもが遠い存在になりがちであったが、理解の深まりとともに「子どもを以前より身近に感じる」といった声が聞かれるようになってきている。

しかし、高齢化に伴い、家庭内だけでなく地域内でも様々な世代間の格差があらわれ、コミュニケーションの深まりが難しい状況である。そこで、子ども同士だけでなく、子どもと大人、さらに、地域の大人同士も互いの思いを伝え合う場の工夫を進めていく必要がある。そのためには、気軽に開催が可能で、気楽に参加できるような小さな地域や諸団体単位の座談会や集会の開催を進めていきたい。そして、小学校・中学校・地域が連携協力し、あいさつ運動やクリーン作戦など身の周りの活動を核にして、これからも継続して取組を推進していきたい。

## 参 考 文 献

- |  |          |
|--|----------|
| 小学校学習指導要領解説 道徳編                                      | 文部省      |
| 中学校学習指導要領（平成10年12月）解説 - 道徳編 -                        | 文部省      |
| 豊かな心をはぐくむ道徳教育の一層の充実のために<br>（平成18年度熊本県道徳教育推進協議会からの提言） | 熊本県教育委員会 |
| 「感動」するとなぜ脳にいいか？ 大島清著                                 | 新講社      |

## 研 究 同 人

|        |       |       |       |       |       |  |  |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--|--|
| 平成18年度 |       |       |       |       |       |  |  |
| 【日奈久小】 | 頼藤 明生 | 鳶崎 伸子 | 川口理一郎 | 森寄 守  | 澤 真理子 |  |  |
|        | 中道 恵子 |       |       |       |       |  |  |
| 【日奈久中】 | 西村 栄祐 | 諸井 逸郎 | 江口 弥生 | 平野 忠興 | 野田 優子 |  |  |
|        | 園田多津乃 | 谷本 真弓 | 山本小百合 |       |       |  |  |
| 平成19年度 |       |       |       |       |       |  |  |
| 【日奈久小】 | 泉 正章  | 永松 智久 | 鬼塚 高志 | 渡邊 容子 | 藤原久美子 |  |  |
|        | 平嶋みどり | 橋本 文雄 | 中村 磨志 | 岩木 茂夫 | 榎田 尚子 |  |  |
|        | 内場真由美 | 高野 将秀 | 米崎 令子 | 寺田 弘道 | 平田 耕造 |  |  |
|        | 古川 明子 | 吉野奈緒美 | 船ヶ山 忍 |       |       |  |  |
| 【日奈久中】 | 立川 忠市 | 塘内 正義 | 樹本 順子 | 瀧本 玲子 | 里木 伸輔 |  |  |
|        | 笹尾 洋一 | 鋤先起代子 | 中村 和也 | 溝俣 祐子 | 杉山 貴光 |  |  |
|        | 吉永 郁子 | 勝田 成美 | 金建ほづみ | 田中 美紀 | 田浦 政義 |  |  |
|        | 嶋田三郎助 | 村岡 正訓 | 堀田 舞  |       |       |  |  |